

STIHL®

STIHL FS 26

取扱説明書



目次

はじめに	2
使用上の注意および作業方法	2
組み合わせ可能なカッティングアタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネス	10
バイクハンドルの取り付け	11
ループハンドルの取り付け	12
デフレクターの取り付け	13
カッティングアタッチメントの取付け	13
燃料	15
給油	16
ハーネスの取付け	17
ユニットのバランス	18
エンジンの始動と停止	19
作業中の注意事項	21
エアーフィルターの掃除	21
キャブレターの調整	22
スパークプラグ	22
エンジンの動作	23
機械の保管	24
金属製カッティングブレードの目立て	24
ユーザーによる点検と保守	24
スチール販売店による点検と保守	25
整備表	26
磨耗の低減と損傷の回避	28
主要構成部品	29
技術仕様	30
整備と修理	31
廃棄	31

お客様各位

この度は STIHL 社の製品をお買上げいただきまして誠に有難うございます。

この製品は、最新の製造技術と入念な品質保証処置を施して製造されました。私共は、お客様がこの製品を支障なく使用され、その性能に満足していただくために最善の努力を尽くす所存であります。

ご使用の製品に関して御質問がおありの際は、お買上げの販売店あるいは直接当社カスタマーサービスにお問い合わせください。

敬具

ニコラス・スチール博士

はじめに

シンボルマークについて

機械に表示されているシンボルマークの意味は、本取扱説明書に説明されています。

対象の機種によっては、以下のシンボルマークが機械に表示されている場合があります。



燃料タンク、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料



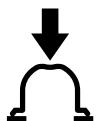
デコンプバルブの操作



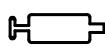
手動燃料ポンプ



手動燃料ポンプの操作



手動燃料ポンプの操作



グリースチューブ



インテークワーカー：夏季作業



インテークワーカー：冬季作業



ハンドルヒーター

段落の前に付いたシンボルや数字



警告

人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。



本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

使用上の注意および作業方法



本機は切断速度や回転速度が速いので、特別の安全措置を講じてケガの危険性を回避してください。



初めて使用するときは取扱説明書をよく読んで理解し、必要なときに見られるよう安全な場所に確実に保管してください。取扱説明書を順守しないと生命を脅かすようなケガを負いややすくなります。

事業主損害賠償保険協会、社会保障機関、労働安全基準局などの機関が規定した、貴国のお安全規定を遵守してください。

パワーツールを初めてお使いになる場合：STIHL サービス店または経験豊富なユーザーに機械の操作方法を教えてもらうか - その専門的な研修に参加してください。

未成年者については、監督者の指示の下で 16 歳以上の未成年者が作業を行う場合を除き、パワーツールで作業を行うことは許可されていません。

子どもや見物人や動物を近づけないでください。

パワーツールを使用しない時は、他人に危険が及ばないよう下に置いてください。承認されていない人が触れないように、本機を保護してください。

他者およびその所有物に対して生じた事故または危険に関しては、その一切の責任をユーザーが負います。

パワーツールは、この機種とその取り扱いに精通している作業者のみに譲渡または貸し出しを行います。必ず取扱説明書も一緒に渡してください。

騒音を発する機械の使用が、国や地域の規則によって規制されている場合があります。

本機を操作する人は、身体的・精神的に健康でなければなりません。

激しい労働に耐えられない体調の方は、パワーツールの使用前にかかりつけの医師に相談してください。

ペースメーカーを付けている方にのみ該当する注意点：本機の点火システムは微量の電磁界を発生します。ペースメーカーの種類によっては影響を完全に排除できません。スチール社では、掛けられつけの医師およびペースメーカーの製造元に問い合わせて、健康上の障害について相談されることをお勧めします。

アルコールや反射神経速度を鈍らせる可能性のある薬品あるいは薬物を服用した状態では、本機を使う作業はしないでください。

割り当てられているカッティングアタッチメントに応じて、本機を芝刈、雑草、灌木、低木、叢林、小さい木、および類似するものの伐採だけに使用してください。

本機は他の目的で使用してはなりません - 事故の危険があります！

STIHL が本機での使用を承認した、または技術的に同等のカッティングアタッチメントやアクセサリーのみをご使用ください。これに関する不明な点がある場合は、STIHL サービス店へお問い合わせください。高品質ツールおよ

びアクセサリーだけをご使用ください。さもないと、事故や本機の破損の恐れがあります。

当社では STIHL 純正の交換部品のご使用をお勧めします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

機械を改造しないでください。安全性が脅かされることがあります。STIHL は、承認されていないアタッチメントを使用した際の人的傷害および物的損害に対しては当社は一切保証を行いません。

本機に取り付けられたガードでは、回転するカッティングアタッチメントによる飛散物（砂利、ガラス、ワイヤなど）すべてからは、作業者を守れない場合があります。飛散物が作業者の方に向かって飛び、当たる恐れがあります。

機械の清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強い流水で機械の部品を損傷する恐れがあります。

衣服と装備

規定に沿った作業服と装備を身に付けてください。



作業着は丈夫なもので、身体に合い、作業しやすいことが最も重要です。作業用のコートではなく、身体にぴったりしたオーバーオールと上着を組み合わせた安全作業服を、着用してください。

枝、藪、機械の可動部などに引っかかる物を、身に付けないでください。スカーフ、ネクタイ、装身具を身に付けてください。長い髪は後ろで束ね

ね、引っかかるないようにしてください（スカーフ、帽子、ヘルメットなどに押し込むなど）



滑らない靴底で爪先に鋼板の入った安全靴を履いてください。

警告



目の負傷の危険性を低減するため、EN 166 基準に準拠したしっかりとフィットする安全ゴーグルを着用してください。安全ゴーグルが正しくフィットしていることを確認してください。

顔面シールドを着用し、正しくフィットしていることを確認してください。顔面マスクだけでは眼を十分に保護できません。

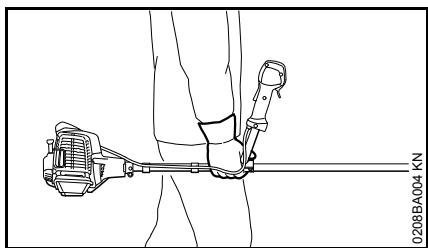
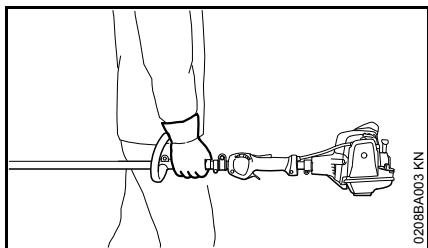
「自分専用」の耳の保護具を着用してください - たとえば防音用耳栓を着用してください。

間伐作業、高い藪での作業の場合、および落下物による傷害の危険性がある作業の場合は、必ず安全ヘルメットを着用してください。



耐性素材（革など）でできた、丈夫な保護手袋を着用してください。

STIHL では、作業者の防護のために各種の作業服や装備を用意しています。

機械の運搬時の注意

エンジンを停止します。

ハーネスで吊り下げる、またはやシャフトを持って機械を運ぶことで、機械のバランスを保ちます。金属製カッティングアタッチメントを接触物から保護します - 運搬ガードを使用します。



機械の高温の部品やギヤボックスには触れないでください - 火傷の恐れがあります！

乗り物で運搬する時：機械が倒れたり、燃料が流れ出たり、破損しないように、固定してください。

給油

ガソリンは非常に簡単に引火します - 火気を近づけないでください - 燃料をこぼしたり、喫煙しないでください。

燃料を給油する前にエンジンを停止してください。

エンジンがまだ熱いうちは給油しないでください - 燃料が流れ出て火災になることがあります！

燃料タンクキャップは、過剰な圧力が徐々に抜けて、燃料が噴き出さないように、慎重に開けてください。

給油は風通しの良い場所で行ってください。燃料がこぼれた場合、直ちに機械を掃除します。作業者の衣服に燃料が付着しないようにしてください。付着した場合は、速やかに衣服を着替えます。



給油の後は、タンクキャップができる限りしっかりと閉めてください。

これにより、正しく締め付けられていない燃料キャップがエンジンの振動によって緩んだり外れたりして燃料が漏れる危険を、低減します。

漏れを確認します。燃料が漏れている場合はエンジンを始動しないでください - 重大なまたは致命的な火傷の危険があります。

始動前

機械が正しく取り付けられ、良好な状態になっているか確認します - 本取扱説明書の関連項目を参照してください：

- 燃料システム、とくに燃料キャップ、ホース接続コネクター、手動燃料ポンプ（手動燃料ポンプが付いている機械のみ）などの見える部品の漏れを点検します。漏れや損傷を発見した場合、エンジンを始動しないでください。**火災の危険があります！** 使用する前に、機械の整備をサービス店に依頼してください
- カッティングアタッチメント、ガード、ハンドルおよびハーネスが許容された組み合せになっており、すべての部品が適切に取り付けられている必要があります
- 停止ボタン / スライドコントロールは簡単に使用できる必要があります
- 暖機スタートノブ、スロットルトリガーロックアウトおよびスロットルトリガーがスムーズに作動することを確認します - スロットルトリガーは自動的にアイドリング位置に戻らなければなりません。スロットルトリガーロックアウトとスロットルトリガーを同時に押したときに、暖機スタートノブが¹位置から通常運転位置²に戻る必要があります。
- スパークプラグターミナルがしっかりと差し込まれているかチェックします。緩んでいる場合は火花が発生することがあり、漏れた混合燃料に引火することがあります！

- カッティング アタッチメントまたは交換用アタッチメント：正しく取り付けられており、しっかりと固定されており、適切な状態にある。
- 安全装置（カッティングアタッチメント用ガード、ガードリングなど）に損傷や磨耗がないか点検します。損傷した部品は交換してください。損傷したガードや磨耗したガードリング（スクリューが摩耗し始めている場合）を取り付けたままで本機を使用しないでください
- 操作部や安全装置に改造を加えないでください
- ハンドルは乾いた清潔な、オイルや汚れのない状態に保ちます - 機械を安全に操作するために重要です
- 吊り下げ用ハーネスとハンドルを身長や手の長さに合うように調整します。このためには、「ハーネスの取り付け」および「機械のバランスのとり方」の項に従ってください。

正常に作動する機械だけを使用してください - 事故の恐れがあります！

ハーネスを使用しているときの緊急事態に備えるには：本機を地面に素早く下ろせるように練習します。この練習中に機械を損傷することを避けるため、機械を地面に投げ下ろさないでください。

エンジンの始動

機械の給油位置から最低 3 メートル以上離れた場所で始動します。密閉された場所では絶対に機械を始動しないでください。

本機は平坦な地面に置いてください。常に安定した足場を確保して、本機をしっかりと保持してください。機械を始動したときにカッティングアタッチメントが回転を開始することがあるため、研削ブレード障害物や地面に触れないようになります。

これは、1人で使用する機械です - 機械の 15 m 以内に他にだれもいないことを確認します。パワーツールを始動するときも同様です！ 飛散物でケガをする危険があります！



カッティングアタッチメントに触れないようにします - ケガの危険があります！



エンジンの落としがけをしないでください - 取扱説明書に従って始動してください。スロットルトリガーを放した後、カッティングアタッチメントが短時間回転し続けます - 情性回転効果！

エンジンのアイドリングを確認します：エンジンがアイドリング回転している（スロットルトリガーを放している）とき、カッティングアタッチメントは静止している必要があります。

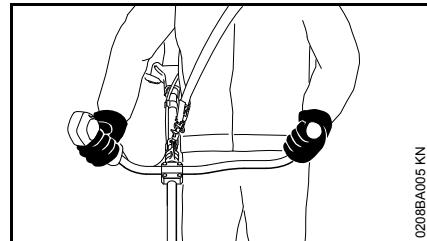
木片、樹皮、乾燥した草木、燃料など燃えやすい素材から排気ガスや加熱されたマフラー表面を離してください - 火事の危険があります！

機械の保持と操作

必ず両手でハンドルを持って機械を保持します。

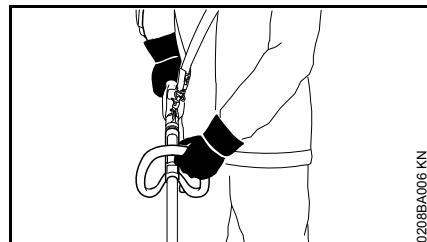
足場は常に、しっかりと安全にしてください。

バイクハンドル付き機種



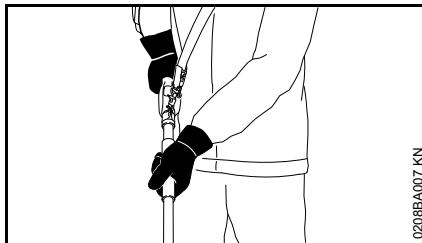
右手でコントロールハンドルを握り、左手でハンドルバー グリップを握ります。

ループハンドル付き機種



ループハンドルを左手で、コントロールハンドルを右手で握ります - 左利きでも同様です。

ハンドル ホース付き機種

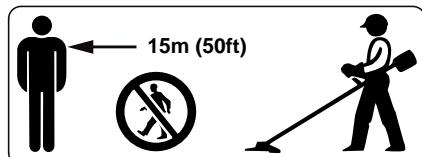


ハンドル ホースを左手で、コントロール ハンドルを右手で握ります - 左利きでも同様です。

作業中

足場は常に、しっかりと安全にしてください。

差し迫った危険や緊急の場合、速やかにエンジンを停止します - 停止ボタン / スライド コントロールを 0 に動かします。



作業場の周りの広い領域内で、飛散物による事故のリスクがあります。ですので、機械の半径 15 m 以内にだれもないことを確認します この距離は物体（車両、窓ガラスなど）に対しても維持する必要があります - 器物の損傷の危険があります！ 15 m を超える距離ですら、危険性はなくなりません。

正しくアイドリングしているか確認して、スロットル トリガーを放したときにカッティング アタッチメントが回転を停止するようにします。

アイドリング設定を定期的に点検および / または修正します。それでもカッティング アタッチメントが回転する場合は、サービス店に機械の修理を依頼してください。スチールではスチールサービス店をお勧めします。

傾斜地や平らでない地面などの滑りやすさ、水滴、雪に注意します。スリップする危険があります！

障害物に注意：切り株、根 - つまずく危険があります！

地面の上に立った状態でのみ作業を行い、はしご、作業台、その他の不安定な表面ではけっして作業しないでください。

イヤーマフを着用している場合は、とりわけ細心の注意を払って作業してください。危険な状態を知らせる音（叫び声、信号音など）に気付きにくくなるためです。

疲労が蓄積しないように、適切な時期に休息をとってください 事故の危険があります！

日中で十分な視界のある場所で、冷静かつ思慮深く作業してください。特に慎重に作業します。他者を危険にさらさないでください。



エンジン運転中は機械から有毒な排気ガスが出来ます。このガスは、無臭で目に見えないことがあります。未燃焼の炭化水素とベンゼンを含んでいることがあります。室内や換気状態の悪い場所では、絶対に機械を使用しないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

溝、くぼ地、あるいは狭い場所で作業する時には、適切な換気を確保してください - 有毒ガスを呼吸することによる命の危険があります！

気分が悪くなったり、頭痛、視界が狭くなるなど視力の障害、聴力の障害、めまい、集中力の低下などを感じたら、即座に作業を停止してください。とりわけ、濃度の高い排気ガスを吸い込むことで、これらの症状が現れることがあります - 事故の恐れがあります！

騒音や排気ガス排出レベルを最低限に維持します - エンジンを不必要に作動しないでください。実際に作業しているときにのみスロットルを開いてください。

作業中および本機の近くでの喫煙は避けてください。火災の危険性があります！燃料システムから、発火しやすいガソリン蒸気が漏れている恐れがあることに、ご注意ください。

作業中に発生する塵埃、噴煙、煙は健康を害することがあります！呼吸用保護具は、多量の埃や煙が発生する場所では必ず着用してください。

不適切な使用のため（例えば、衝撃や衝突による影響）、エンジン駆動機械に応力がかかった場合には、作業を継続する前に、機械が安全動作状態になっているか必ず点検してください。「始動前」も参照してください。

給油システムに漏れないことを確認し、安全装置が正しく機能していることを確認します。お使いの機械に損傷がある場合は、作業を続けないでください。はつきりしない場合は、サービス店に点検を依頼してください。



使用する機械およびカッティングアタッチメントに対応したガードを取り付けずに作業することは、絶対にしないでください
- 飛散物のためにケガをする危険があります！



作業区域の確認：石や金属部品などの硬い物体が、カッティングブレードによって横に飛び散ることがあります - 15 m を超える距離ですら、ケガの危険があります！ - カッティングアタッチメントや他の器物（駐車中の車両、窓など）を損傷することもあります。

手に負えないほど密生した草に覆われた場所で作業するときは、特別な注意を払ってください。

高いやぶ、茂みや生垣を刈り込む場合：カッティングアタッチメントでの作業のために 15 cm 以上の高さを確保します - 動物を危険にさらさないよう注意してください。

機械をそのままにして離れる場合は、必ずエンジンを停止してください。

短い間隔で定期的に、または明らかな変化に気付いたときすぐに、カッティングアタッチメントを点検します：

- エンジンを止め、機械をしっかりと保持して、カッティングアタッチメントを停止します
- 状態および接続部分がしっかりとしていることを確認し、クラックの有無を点検します

- 目立ての状況を確認します
- 損傷したまたは切れ味が鈍くなったカッティングアタッチメントは、すぐに交換してください。小さな細かいひびが見られる場合も同様です

ツールの取り付け部分は定期的に掃除して、草や木片を取り除きます - カッティングアタッチメントやガード上および付近の障害物を取り除きます。

カッティングアタッチメントを交換するには、エンジンのスイッチを切ります - ケガの危険があります！



作業時にギヤボックスが熱くなります。絶対にギヤボックスに触れないでください - 火傷の危険があります！

損傷したあるいは亀裂の入ったカッティングアタッチメントを再使用または修理（溶接、真直ぐにするなど）しないでください - 変形する（アンバランスになる）危険があります。

小片や破片がカッティングアタッチメントから飛んで、高速で作業者や他の居合わせた人に当たることがあります - 重傷の危険があります！

金属製カッティングアタッチメントの使用

当社では、純正の STIHL 金属製カッティングアタッチメントの使用を推奨します。これらの部品は、本機に対しても、利用者のご要望に対しても、最適化されています。

金属製カッティングアタッチメントは、高速で回転します。このために、力が本機、アタッチメント、および切断する素材に加わります。

金属製カッティングアタッチメントは、仕様に従って定期的に目立てする必要があります。

均一に目立てされていない金属製カッティングアタッチメントは、アンバランスになり、機械に過大な負荷を掛けことがあります - 破損の危険があります！

切れ味が悪いまたは不適切に目立てされた刃により、金属製カッティングアタッチメントの負荷が増大することがあります - 部品に亀裂や破損が発生して、ケガの危険があります！

硬い物体（石、玉石、金属部品など）に当たった場合、金属製カッティングツールを点検してください（亀裂や変形など）。パリや目視できる他の蓄積した物体を取り除く必要があります。取り除かないとそのまま作業すると、それらの物体が剥がれて、横に飛び散ることがあります - ケガの危険があります！

回転している金属製カッティングアタッチメントが石や他の硬い物体に当たると、火花が発生し、特定の条件下では燃えやすい物質への引火の原因となる可能性があります。特に高温で乾燥した状況下では、乾燥した植物や雑木が燃えやすい物質に含まれます。火災の危険がある場合、容易に燃える物質、乾燥した植物や雑木の近くで金属製のカッティングアタッチメントを使用しないでください。火災の危険があるかどうか、必ず該当する森林委員会に確認してください。

金属製カッティングアタッチメントを使用することによる上記の危険を低減するには、極端に直径が大きい金属性カッティングアタッチメントを決して使用しないでください。重すぎるもの

を使用しないでください。適切な品質の素材で製造されたもので、正しい形状(形、厚さ)であることが必要です。

STIHL 製以外の金属製カッティングアタッチメントは、当社が本機に対して承認した金属製カッティングアタッチメントより重くても、厚くても、形状が違っていても、直径が大きくともいけません - ケガの危険があります！

振動

チェンソーを長時間使用した場合は、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります(「白ろう病」)。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- 手の防護(暖かい手袋)
 - 休憩を取りながら作業する
- 以下の場合には使用時間を短くします：
- 血行不良の特殊体質(症状：指がよく冷たくなる、しづれ)。
 - 低い外気温。
 - 握む力の強さ(強く握りしめると、血行が低下します)。
 - フルスロットルでの長時間運転。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状(指のしづれ等)が繰り返し発症する時は、医師による診断をお薦めします。上記のいずれかの症状が現れたら(指がうずくなど)、医師にご相談ください。

整備と修理

定期的に本機を整備してください。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業は STIHL サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けた STIHL サービス店のみに依頼されることをお勧めします。STIHL サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。これに関して不明な点がある場合は、STIHL サービス店へお問い合わせください。

当社では STIHL 純正の交換部品のご使用をお勧めします。これらは、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

不意にエンジンが始動してケガをする危険性を軽減するために、修理、保守、および清掃作業前に常にエンジンを停止して、スパーク プラグ ターミナルを取り外してください。- 例外：キャブレターおよびアイドリング回転数の調整時は例外です。

スパーク プラグ ターミナルまたはスパーク プラグを外した状態で、スターでエンジンを始動しないでください。火花を抑制できずに火災が発生する危険性があります。

火災の危険性を回避するため、火気の近くで修理したり、保管したりしないでください。

燃料フィラー キャップにもれがないか定期的に点検してください。

当社で承認されたタイプのスパークプラグだけを使用して、支障なく作動することを確認してください(「技術仕様」の項を参照)。

イグニッション ケーブルに異常がないこと(良好な絶縁状態、接続の確実性)を確認してください。

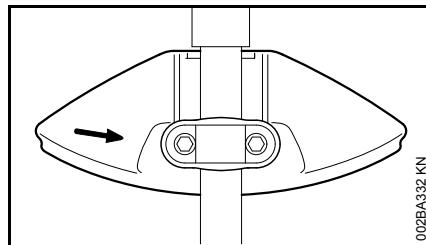
マフラーに異常がないことを確認してください。

火災の危険や聴覚障害を避けるために、破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま作業しないでください。

高温のマフラーに触れて、火傷しないようにしてください。

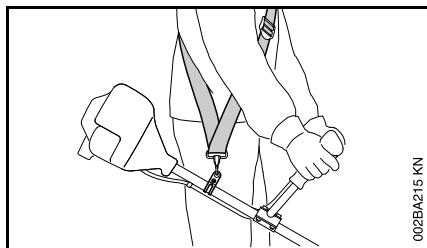
振動の強さは、防振部品の状態に左右されますので、定期的に防振部品を点検してください。

デフレクター上の記号



デフレクターの矢印は、カッティングアタッチメントの適正な回転方向を示しています。

肩掛けベルト

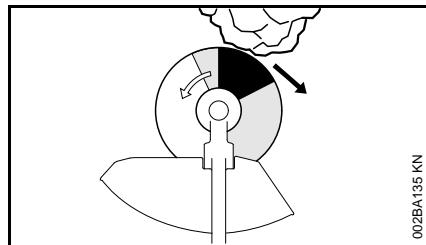


- 肩掛けベルトを使用します。
 - エンジンをかけた状態では、本機を肩掛けベルトに吊り下げます。
- 草刈ブレードには必ず肩掛けベルトを使用してください。

金属製カッティングアタッチメントの使用時の、キックバック(ブレードスラスト)の危険

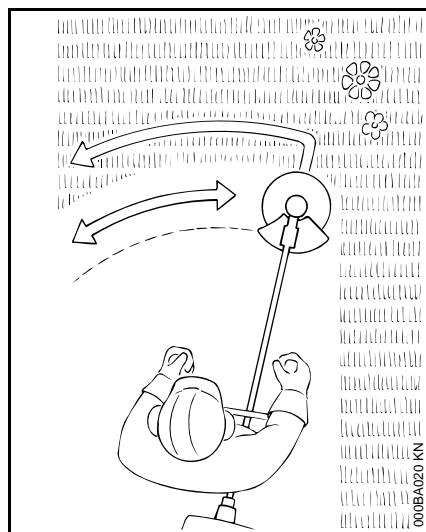


金属製カッティングアタッチメントを使用する場合、回転しているブレードが硬い障害物（木の根や枝、切り株、石など）に当たるとキックバックの危険があります。機械は、アタッチメントの回転方向と反対の、右または後方に跳ね返ります。



回転しているカッティングアタッチメントが黒い色の範囲で硬い障害物に当たった場合、キックバックの危険性が一層高まります。

草刈ブレード



芝や雑草のみに使用します - 鎌のように円弧状に刈払機を振ります。

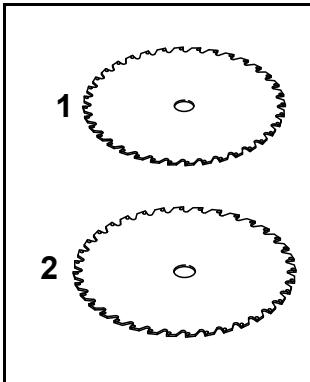


不適切に刈払機を使用すると、草刈ブレードを損傷することがあります - 破損部分でケガをする危険があります。

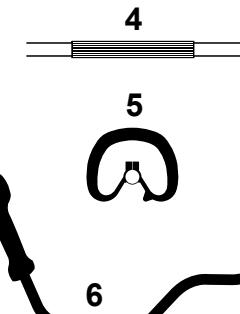
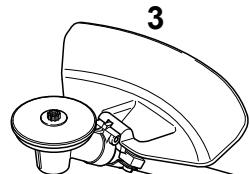
草刈ブレードの切れ味が明瞭に低下した場合は、規定通りに目立ててください。

組み合わせ可能なカッティング アタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネス

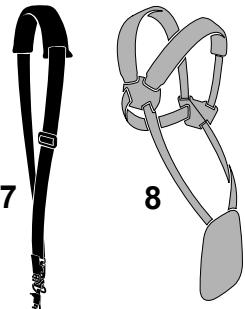
カッティング アタッチメント ガード



ハンドル



ストラップ / ハーネス



0209BA050 KN

使用可能な組み合わせ

使用するカッティング アタッチメントに応じて、表から適切な組み合わせを選択します。



安全上の理由で、これ以外の組み合わせは許可されていません - **事故の危険があります。**

ガード

3 金属製カッティング アタッチメント用ガード

ハンドル

4 ハンドルホース
5 ループハンドル
6 バイクハンドル

カッティング アタッチメント金属製カッティング アタッチメント

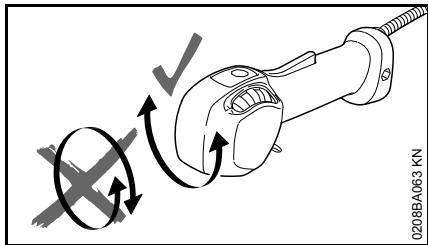
- 1 草刈ブレード 230-36
(Ø 230 mm)
- 2 草刈ブレード 255-36
(Ø 255 mm)

ハーネス

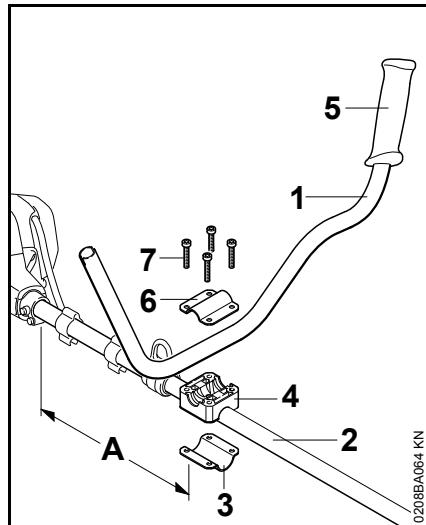
7 肩掛けベルトを必ず着用
8 フルハーネスを使用可能

バイク ハンドルの取り付け

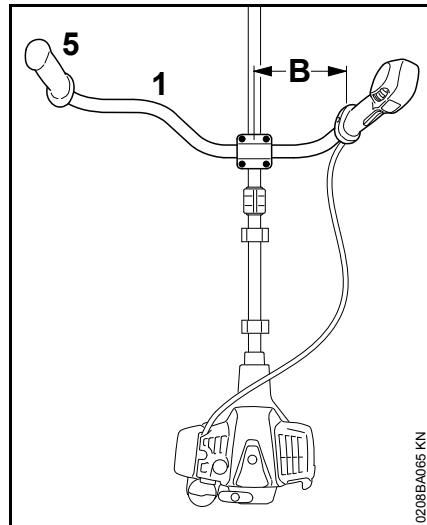
ハンドルバーの取り付け



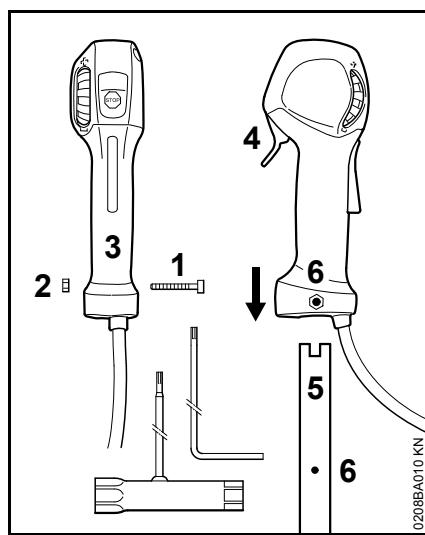
機械の梱包を開いてからハンドルバーに取り付けるまでの間、前後軸を中心コントロール ハンドルを回さないでください。「スロットル ケーブルの調整」の章も参照してください。



- ハンドルバー (1) を、シャフト (2) 上エンジンハウジングの前方約 40 cm (15 in) の距離 (A) に固定してください
- クランプ (3) とシャフト (2) のハンドルバー サポート (4) の位置を合わせます



- ハンドルバー (1) を、距離 (B) が 15 cm (6 in) を超えないようにハンドルバー サポートに取り付けます
 - ゴムハンドル (5) が左側 (エンジンからハンドルバーを見た方向) になる必要があります
- クランプ (6) をハンドル サポートに取り付けます
- スクリュー (7) を部品の穴に挿入して、クランプ (3) に止まるまでねじ込みます
- ハンドルバーの位置を合わせます
- スクリューを締め付けます

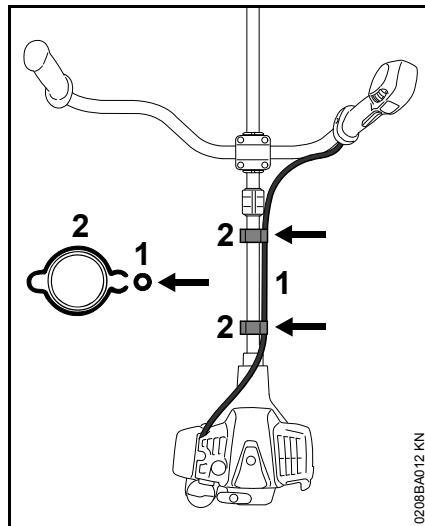
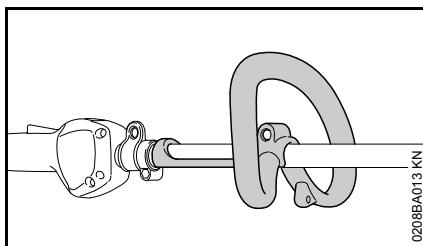
コントロール ハンドルの取り付け

- ボルト (1) を外します - ナット (2) はコントロール ハンドル (3) の中に残します
- コントロール ハンドルを、スロットルトリガー (4) がギヤーボックスの方向を向いた状態で、ハンドルバー (5) の端に、穴 (6) が揃うまで押し込みます
- ボルト (1) を差し込み、締め付けます

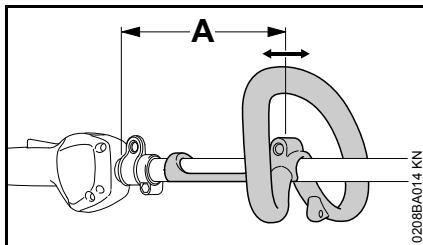
スロットル ケーブルの固定

注記

スロットル ケーブルがよじれたり、取り付け半径が小さくならないようにします - スロットルトリガーがスムーズに動く必要があります！

ループ ハンドルの取り付け

新しい機械は、ループ ハンドルが本体にあらかじめ取り付けられた状態で出荷されます。

ループ ハンドルの方向調整および固定

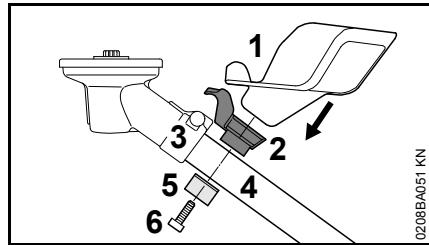
距離 (A) を変更することで、ハンドルを作業者および用途に最適な位置に動かすことができます。

推奨：距離 (A) は約 35 cm です

- ハンドルのスクリューを緩めます
- ハンドルを希望する位置にスライドさせます
- スクリューを締め付けて、ハンドルがシャフトを中心に回転しないようにします

デフレクターの取り付け

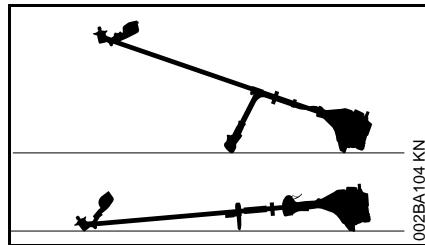
デフレクターの取り付け



- デフレクター (1) をクランプ (2)と一緒にシャフト (4) 上のギヤー (3) のクランプ デバイスに取り付けます
- クランプ (5) をデフレクターに、穴が揃うように取り付けます
- スクリュー (6) を挿入し、締め付けます
- デフレクターがしっかりと固定されていることを確認します - 必要に応じてスクリューを締め付けます

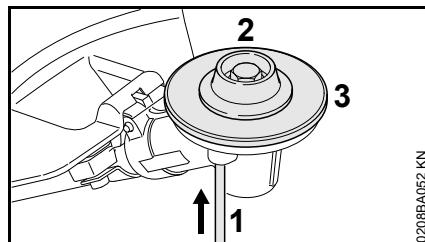
カッティング アタッチメントの取付け

パワーツールを地面に置く



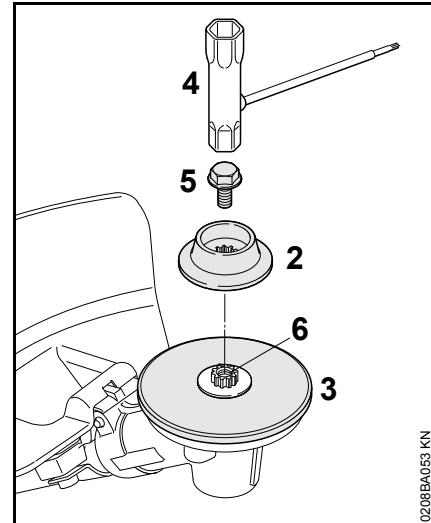
- エンジンを停止します。
- カッティング アタッチメント装着部が上向きになるように、パワー ツールを置きます。

シャフトの固定



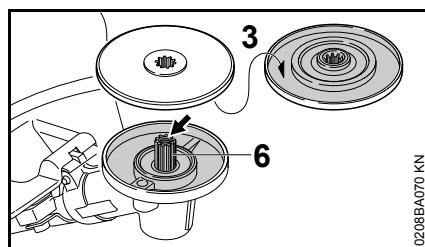
- ロッキング ピン (1) を穴(矢印)からギヤーボックスに止まるまで挿入し、軽く押します
- ガード リング (2) およびスラスト プレート (3) を、ロッキング ピンがスラスト プレート (3) にかみ合うまで回します

取り付け金具の取り外し



- シャフトを固定します
- レンチ (4) をスクリュー (5) に合わせます
- ボルト (5) を時計回りに回して緩めて(左ネジ)、取り外します
- ガード リング (2) を取り外し、スラスト プレート (3) をシャフト (6) に取り付けたままにします

カッティング アタッチメント用ギヤー パーツの清掃



シャフト内のスラストプレート(3)とねじ山付き穴の周辺および内部のエリアに埃があるかどうか定期的に確認します。ギヤーへのカッティングアタッチメントの取り付け前にそうするには：

- スラストプレート(3)をシャフト(6)から取り外します。
- ギヤーおよびスラストプレート(灰色)の内部表面とシャフト(6)のねじ山付き穴をベースまで清掃します。

⚠️ 警告

シャフト(6)のねじ山付き穴には埃をためないようにしてください。そうしないとスクリュー(5)を完全にねじ込むことができず、カッティングアタッチメントを固定できません！

金属製カッティングアタッチメントの取り付けと取り外し

金属製カッティングアタッチメントを取り付ける / 取り外すには：

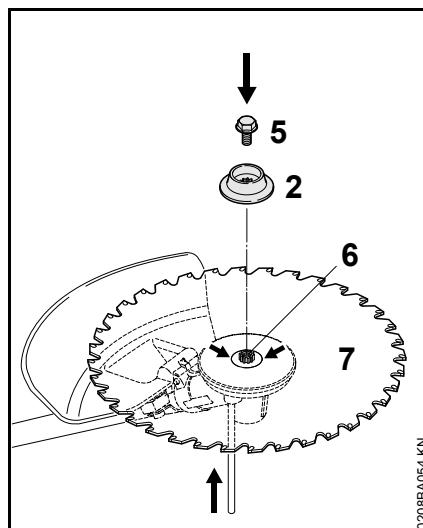
⚠️ 警告

保護手袋を着用してください - 鋭利な刃先でケガをする危険があります

カッティングアタッチメントの配置

草刈ブレード 230-36 および 255-36 の場合、刃先は時計方向を向いている必要があります。

カッティングアタッチメントの取り付け



- カッティングアタッチメント(7)の位置を調整します

⚠️ 警告

スラストプレートのカラー(小さな矢印)は、カッティングアタッチメントの穴に突き出ている必要があります。

カッティングアタッチメントの固定

- ガードリング(2)をシャフト(6)に取り付けます。
- ボルト(5)をシャフト(6)の位置に合わせて、止まるまで反時計回りに締め付けます
- シャフトを固定します
- スクリュー(5)をレンチで締め付けます

⚠️ 警告

簡単に動くスクリューは交換する必要があります。

⚙️ 注記

シャフト固定用ツールを抜き取ります。

カッティングアタッチメントの取り外し

- シャフトを固定します
- ボルトを時計回りに回して緩め、取り外します
- ガードリングを取り外します
- カッティングアタッチメントをスラストプレートから取り外します

燃料

エンジンには、ガソリンと 2 サイクルエンジン用オイルの混合燃料が必要です。



警告
健康を害しますので、ガソリンに直接肌を触れたり、ガソリンの蒸気を吸い込まないようにしてください。

STIHL モトミックス (MotoMix)

当社は STIHL モトミックス (MotoMix) のご使用をお勧めします。この既製の混合燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン値で常時、適正な混合率を保ち、安心してご使用いただけます。

STIHL モトミックス (MotoMix) は、STIHL HP ウルトラ 2 サイクルエンジン オイルを使用しており、優れたエンジン長寿命が得られます。

STIHL モトミックス (MotoMix) が販売されていない市場もあります。

燃料の混合



注記

規定されている以外の不適切な燃料やオイル、または混合比率を使用されると、エンジンに重大な損傷を生じることがあります。低品質のガソリンあるいはエンジンオイルは、エンジン、オイルシール、燃料ホース、および燃料タンクを損傷することがあります。

ガソリン

無鉛と有鉛にかかわらず、最低オクタン値 90 の高品質ブランドのガソリンだけを使用してください。

触媒コンバータを装備した機械には、必ず無鉛ガソリンを使用してください。



注記

鉛含有ガソリンを燃料タンク数回分使用した場合、触媒効果は大幅に低下します。

エタノール濃度が 10% 以上のガソリンは、手動調整可能キャブレター付きエンジンで、動作上の問題を引き起こすことがあります。そのようなエンジンには使用しないでください。

M トロニック を搭載しているエンジンは、エタノール濃度最大 25% までのガソリン (E25) で動作するときに、最大の出力を發揮します。

エンジン オイル

高品質の 2 サイクルエンジンオイルのみ、できれば、STIHL HP、HP スーパー、または HP ウルトラ エンジンオイルを使用します。これらは、STIHL エンジン用に特別に設計されています。HP ウルトラは、高い性能と長いエンジン寿命を保証します。

一部の市場では、これらのエンジンオイル入手できません。

触媒コンバータを装備した機種で使用する混合燃料には、STIHL 2 サイクルエンジンオイル 50:1 だけを使用してください。

混合比率

STIHL 50:1 2 サイクルエンジンオイルの場合 : 50:1 = ガソリン 50 + オイル 1

例

ガソリン	STIHL 2 サイクルオイル 50:1
リットル	リットル (ml)
1	0.02 (20)
5	0.10 (100)
10	0.20 (200)
15	0.30 (300)
20	0.40 (400)
25	0.50 (500)

- 燃料の保管には承認された容器を使用してください。燃料容器に先ずオイル、その後にガソリンを入れて、充分に混ぜ合わせます。

燃料の保管

燃料は、承認された安全タイプの燃料容器に入れて、乾燥した、涼しい、安全な、太陽や照明から保護された場所に保管してください。

混合燃料は時間の経過と共に劣化します - 数週間で使い切る分だけ混合してください。混合燃料を 30 日以上保管しないでください。照明や太陽の直射や過酷な高温では、混合燃料の劣化が加速されます。

STIHL モトミックスは、問題なく最長 2 年間保管することができます。

- 給油する前に混合燃料の入った携行缶をよく振ってください。

⚠ 警告

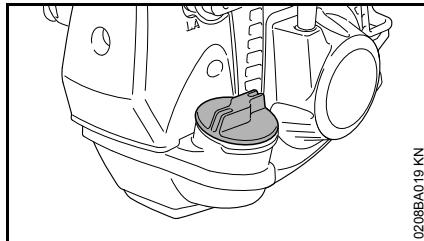
携行缶内で圧力が生じている可能性があるので、慎重に開けてください。

- 燃料タンクと携行缶は、時々十分に洗浄してください。

残ったガソリンと洗浄に使用した液体は、その地域の規定と環境要件に従つて適切に処理してください。

給油

燃料タンク キャップ

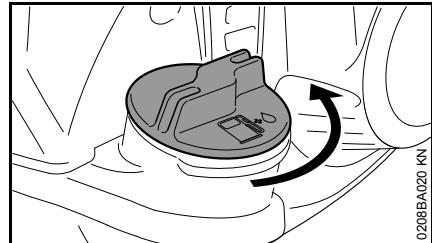


⚠ 警告

斜面で燃料を補充する際は、必ずフィラーキャップが上り坂側に向くように機械を配置します。

- フィラーキャップが上に向くよう、機械を平坦な地面に置きます。
- 給油する前に、汚れがタンクの中に入るのを防ぐため、フィラーキャップとその周りをきれいにしてください。

タンク キャップを開ける。



- キャップを反時計回りに、キャップをタンクの開口部から外すことができるまで回します。
- キャップを外します。

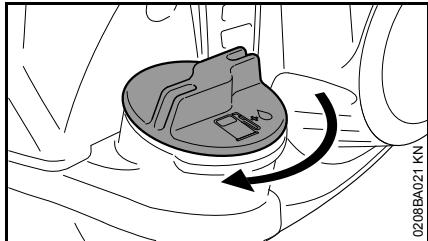
燃料の補充

給油の際には燃料をこぼしたり、あふれさせないでください。

当社では、給油用に STIHL フィラーノズル（特殊アクセサリー）の使用をお勧めします。

- 燃料を補充します。

タンク キャップを閉める。

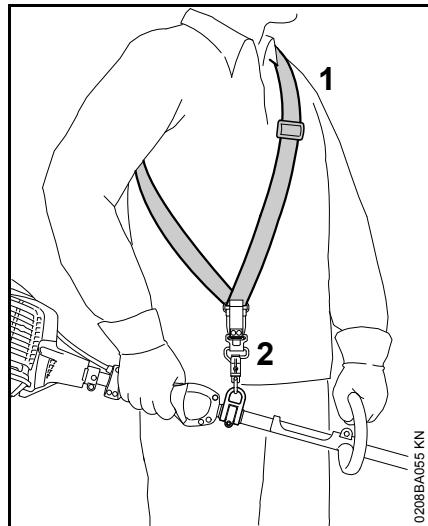


- 開口部にキャップを置きます。
- キャップを時計回りに、止まるまで回します。手でできる限りしっかりと締め付けます。

ハーネスの取付け

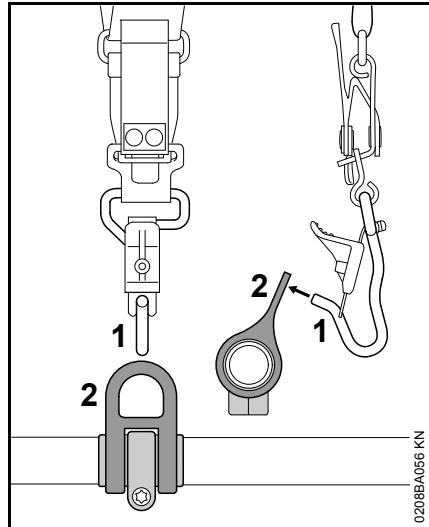
ハーネスを使用するには、「カッティング アタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネスの承認された組み合わせ」の章を参照してください。

肩掛けベルト



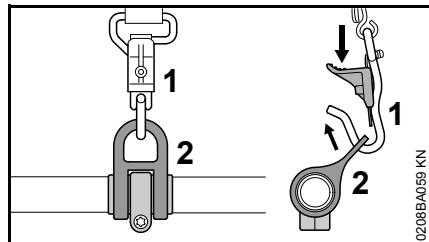
- 肩掛けベルト (1) の位置を調整します
- ベルトの長さを調整して、スナップ フック (2) が、右腰から手幅分下の位置に来るようになります
- 機械のバランスを取ります

機械のハーネスへの接続



- スナップ フック (1) をドライブ チューブの吊り下げ用リング (2) に掛けます

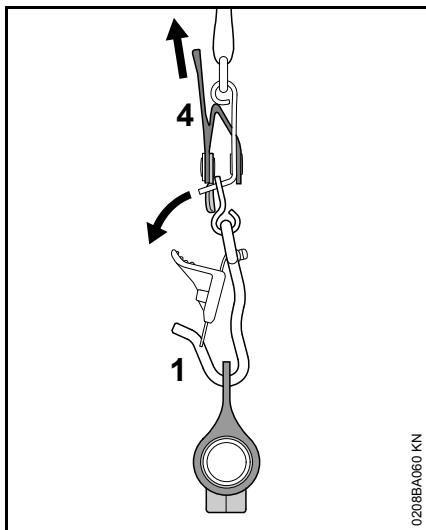
ハーネスからの機械の取り外し



- スナップ フック (1) のスプリングを押して、吊り下げ用リング (2) をフックから外します

緊急時に機械を下に置く**⚠ 警告**

危険な状況が発生していることが明らかになった場合はいつでも、できる限り速やかに機械を下に置く必要があります。

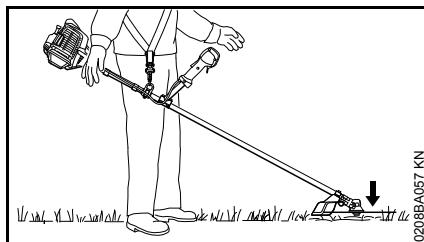


- ストラップのスプリング (4) を上方に引くと、スナップフック (1) とトリマー (2) がハーネスから外れます

機械を下に置く練習をします。練習するときはシャフトで機械を把持し、機械を損傷しないようにします。

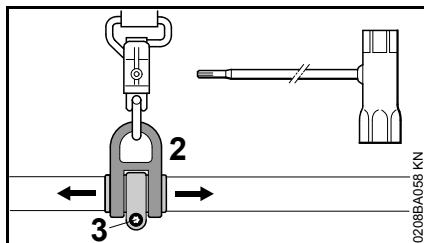
ユニットのバランス

- 吊り下げ用リングのスクリューを締め付けます

吊り位置

- 芝刈りブレードは、地面に軽く当たるようにする必要があります

次の手順を実行して、適切な吊り下げ位置になるようにします：

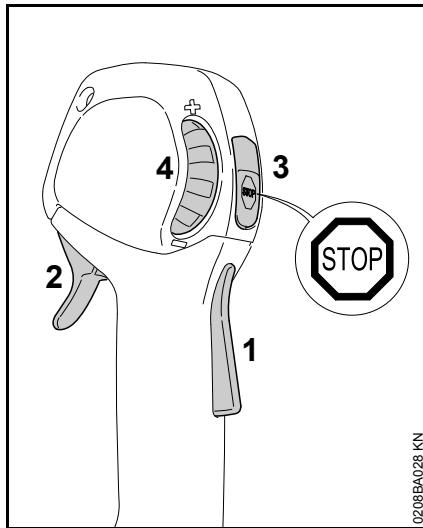
機械の動きが止まるまで、機械を吊り下げて揺れるままにします

- スクリュー (3) を緩めます
- 吊り下げ用リング (2) を調整して（スクリューを軽く締め付けます）、機械を吊り下げて止まるまで揺れるままにします - 吊り位置を確認します

適切な吊り位置になつたら：

エンジンの始動と停止

操作機能



- 1 スロットル レバー ロック
- 2 スロットル トリガー
- 3 停止スイッチ - 通常運転および停止の設定付き。イグニッションシステムのスイッチを切るには、停止スイッチ (⊖) を押す必要があります - 「停止スイッチおよびイグニッションの機能」を参照してください
- 4 サム ホイール - スロットル開度を制限します - 「サム ホイールの機能」を参照してください

停止スイッチおよびイグニッションの機能

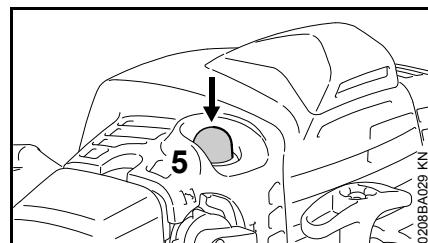
停止スイッチが作動していない場合、このスイッチは通常運転位置にあります：イグニッションのスイッチがオンになると、エンジンは始動できます。停止スイッチが作動している場合、イグニッションのスイッチはオフになっています。エンジン回転が停止すると、イグニッションが自動的にオンに戻ります。

サム ホイールの機能

サム ホイールは、スロットル開度を無段階に制限するために使用されます：

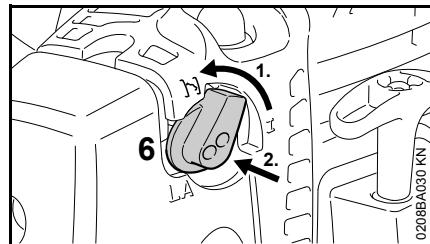
- サムホイールを - へ一杯まで回すとアイドリング回転
- サムホイールを + へ一杯まで回すとフルスロットル
- スロットルトリガーを強く押し込むと、限界値を上回ることができます - 限界の設定は、これによって無効になります

エンジンの始動



- 手動燃料ポンプ (5) を 5 回以上押してください - ポンプに燃料が充填されている場合でも同様の操作を行います

冷機エンジン (冷機スタート)



- 暖機スタートのノブ (6) を回し、I まで押します

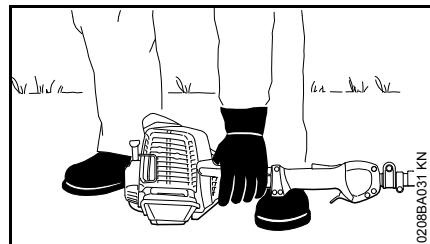
エンジンの始動後、温まりきっていない場合もこの位置に移動します。

- サム ホイールを + まで、止まるまで回します

暖まっているエンジン (暖機スタート)

- 暖機スタートのノブ (6) は、I 位置のままです

始動



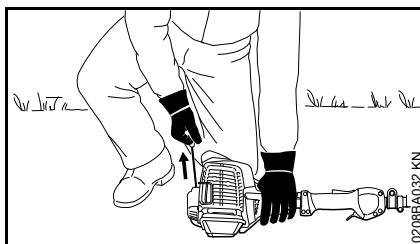
- 機械を安全な場所の地面に横にして置きます：エンジン サポートとカッティング アタッチメントのデフレクターを下にして置く必要が

ありますカッティング アタッチメントは地面やその他の物体に接触してはなりません

- 安定した足場を確保します - 可能性：立つか、膝を折るか、ひざまづく
- 機械を左手で地面にしっかりと押しつけます - このとき、スロットルトリガー、スロットルトリガーロックアウトや停止スイッチに触れないようにします

注記

シャフトの上に立ったり、膝を付いたりしないでください！



- 右手で、スターター グリップをゆっくりと、なめらかに引きます

注記

スターター ロープは完全に引き出さないでください - 破損する危険があります！

- スターター グリップを急に離さないでください - 手を添えてハウジングにゆっくりと戻すと、スターター ロープが正しく巻き込まれます
- この手順を、エンジンが始動するまで繰り返します

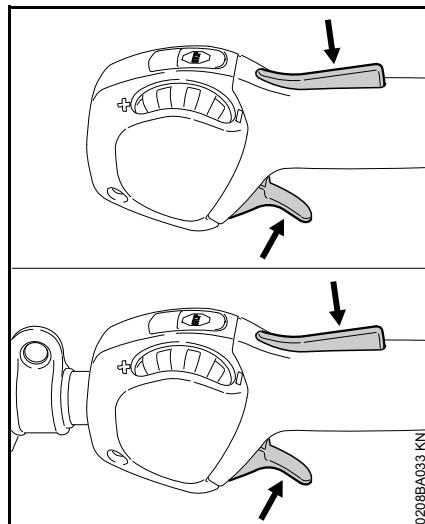
エンジンが始動したら

気温が 10 °C 未満の場合

I の位置にして、機械が暖まるのを 10 秒以上待ちます。

気温が 10 °C 以上の場合

I の位置にして、機械が暖まるのを約 5 秒待ちます。



- スロットルトリガーロックアウトを押して加速します - 暖機スタートノブが通常運転位置 I に移動します

冷機スタート後は、アクセルを数回開いて、エンジンを暖めます。

警告

キャブレターが正しく設定されていれば、エンジンがアイドリング回転のときカッティングアタッチメントは回転しません！

これで機械の使用準備が完了しました。

エンジンの停止

- 停止スイッチを押します - エンジンが停止します - 停止スイッチを離します - 停止スイッチが元の位置に戻ります

始動についてのヒント

エンジンが冷機スタート位置 I で停止する。

- スロットルトリガーロックアウトを押して加速します - 暖機スタートノブが通常運転位置 I に移動します
- エンジンがかかるまで、I 位置で始動操作を続けます

冷機スタート位置 I で作動しているエンジンが、加速中に停止する。

- エンジンがかかるまで、冷機スタート位置 I で始動操作を続けます

エンジンが始動しない

- すべての操作に関するスイッチ類が正しく設定されているか確認します
- タンク内に燃料があるか確認して、必要な場合は給油します
- スパーク プラグ ターミナルがしっかりと接続されているか確認します
- 始動手順を繰り返します

エンジン燃焼室への燃料吸い込みすぎ

- チョークノブを I に合わせ、エンジンがかかるまで始動操作を繰り返します。

燃料タンクが完全に空になってから再給油した場合

- 給油したら、手動燃料ポンプを 5 回以上押してください - 燃料が充填されている場合でも、同様の操作を行います。
- 暖機スタート ノブを、エンジン温度に合わせて設定します
- エンジンを再始動します

作業中の注意事項

ならし運転

新品の機械は、最初の燃料 3 タンク分の間は、高速回転（無負荷でフルスロットル）で運転しないでください。これでならし運転中の不要な高負荷を避けます。すべての動く部品は、ならし運転中になじんでくるので、この期間はエンジンの摩擦抵抗が大きくなっています。エンジンの最高出力を発揮できるのは、タンク 5 ~ 15 回分の使用後となります。

作業中

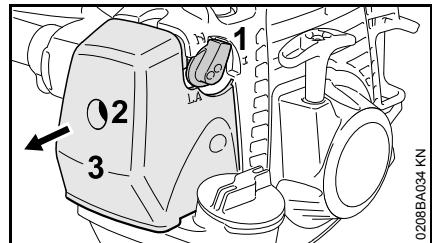
長時間のフルスロットル運転後は、しばらくの間アイドリングしてエンジンの熱を冷却風で放熱してください。組み込まれている部品（イグニッションやキャブレター）を熱から守るためにです。

作業後

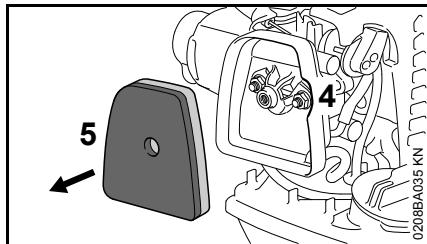
短期間使用しない場合：エンジンが冷えるまで待ちます。燃料タンクを空にして、次の使用時まで火気のない乾燥した状態で保管します。長期間に未使用の場合は、「機械の保管」を参照してください。

エアーフィルターの掃除

エンジンの出力が著しく低下した場合



- 暖機スタート ノブ (1) を I にセットします
- フィルター カバー (3) のスクリューアー (2) を反時計回りにカバーが緩むまで回します
- フィルター カバー (3) を取り外します
- フィルターの周りに付着した汚れを取り除きます



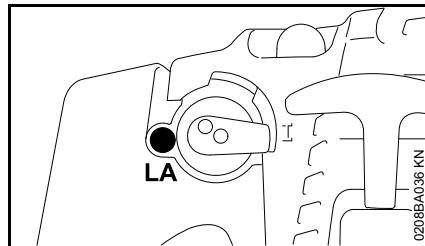
- フィルターハウジングの溝(4)から、フェルトフィルター(5)をしっかりと掴んで取り外します
- フェルトフィルター(5)を交換します - 一時的な方法として、フィルターを手のひらでたたくか、圧縮空気を吹き付けることができます - 洗浄しないでください



注記

- 損傷した部品は交換してください！
- フェルトフィルター(5)をフィルターハウジングにしっかりと挿入します
 - 暖機スタートノブ(1)を \top にセットします
 - フィルターカバー(3)を取り付けます - スクリュー(2)が斜めになつていいないことを確認します - スクリューを挿入して締め付けます

キャブレターの調整



機械のキャブレターは、すべての作業状態で、最適な性能と燃料効率が得られるように、工場で調整されています。

アイドリング回転数の設定

アイドリング回転中にエンジンが停止する

- アイドリングスピード調整スクリュー(LA)を、エンジンが滑らかに動作するまで時計回りにゆっくり回します。

アイドリング中にカッティングアタッチメントが回る場合

- アイドリングスピード調整スクリュー(LA)を、カッティングアタッチメントの回転が止まるまで、ゆっくりと反時計回りに回します



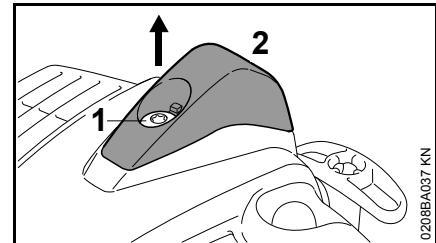
警告

調整後もカッティングアタッチメントがアイドリング回転時に回転し続ける場合は、サービス店に点検を依頼してください。

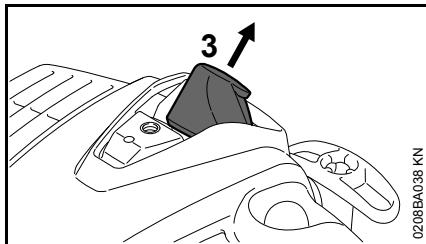
スパークプラグ

- エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドリングが不安定になったら、先ずスパークプラグを点検してください。
- 約100時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパークプラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

スパークプラグの取り外し

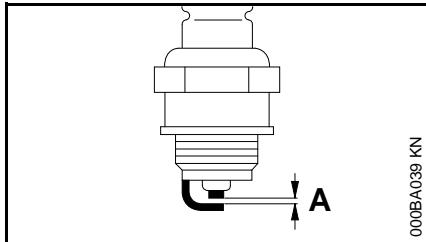


- キャップ(2)のスクリュー(1)を取り外せるようになるまで回します
- キャップを下に置きます



- スパーク プラグ ターミナル (3) を外します
- スパーク プラグを外します

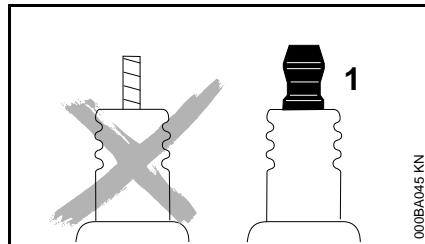
スパークプラグの点検



- 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- 電極ギャップ (A) を点検して、必要な場合は調整します - 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因 :

- エンジンオイル混合量の過多
- エアーフィルターの汚れ
- 劣悪な使用環境



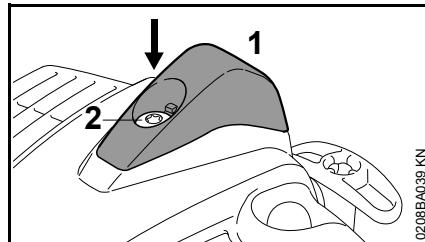
! 警告

アダプターナット (1) が緩んでいるか、外れている場合はアークが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあります。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与える可能性があります。

- 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

スパーク プラグの取り付け

- スパークプラグを取り付け、しっかりと締め付けます。
- ターミナルをしっかりとスパーク プラグに押し込みます。



- キャップ (1) を取り付け、スクリュー (2) を差し込み、しっかりと締め付けます。

エンジンの動作

エアーフィルターを整備し、キャブレターおよびスロットルケーブルを正しく調整したにも関わらず、エンジンの動作が依然として不十分な場合は、マフラーにも問題がある可能性があります。

マフラーが汚れていないか（カーボンが付着している）、サービス店で点検してください！

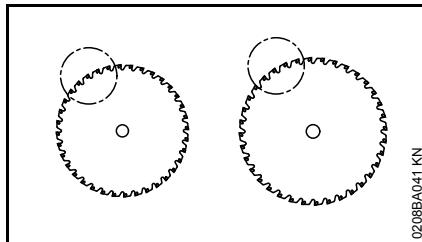
当社では、整備や修理を STIHL 認定サービス店だけに依頼されることをお勧めします。

機械の保管

機械を約 3 ヶ月以上使用しない場合

- 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します
- 規則に準じて、環境に害を及ぼさないように燃料を廃棄してください
- キャブレターが乾くまでエンジンを運転します。これによりキャブレターのダイヤフラムの貼り付きを防止します。
- カッティングアタッチメントを取り外し、きれいにして点検してください。金属製カッティングアタッチメントを保護オイルで処理します。
- 機械を丁寧に掃除します
- 機械を乾いた安全な場所に保管してください。子供などによる許可外の使用を避けてください

金属製カッティングブレードの目立て



摩耗が確認されたら、サービス店に問い合わせて、STIHL USG を使用してカッティングアタッチメントの超硬チップ付きカッターを目立ててもらってください。STIHL では STIHL サービス店をお勧めします。

ユーザーによる点検と保守

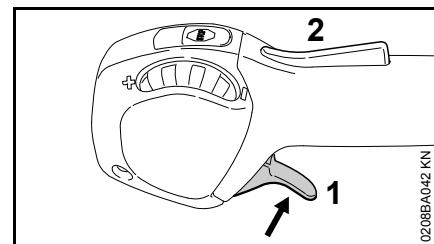
スロットルケーブルの調整

機械が完全に組み立てられている場合のみ、スロットルケーブルを設定します。コントロールハンドルは、動作位置になっている必要があります。

下記に示されている調整を行っても望ましい結果が得られない場合は、サービス店に問い合わせて機械の修理を依頼してください。STIHL では STIHL サービス店をお勧めします。

スロットルケーブルの設定の点検

エラー パターン：スロットルトリガーのみが押されている時、機械の回転数が上昇する

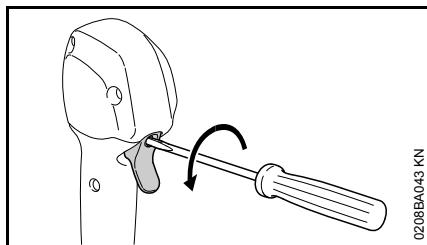


- エンジンを始動します
- スロットルトリガー (1) を押します - スロットルトリガーロックアウト (2) を作動させないでください

エンジン回転数が上昇するかカッティングアタッチメントも回転する場合、スロットルケーブルを設定する必要があります。

- エンジンを停止します

スロットルケーブルの調整



- スロットルトリガー(1)およびスロットルトリガーロックアウト(2)を止まるまで握り込み、保持します

軽く握って、レバーが停止の所定位置に保持されるようにします。

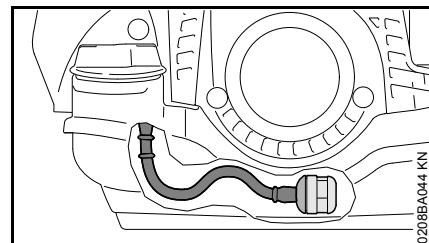
- スロットルトリガーのスクリューを1/2回転反時計回りに回します
- スロットルトリガーおよびスロットルトリガーロックアウトを解放します
- エンジンを始動し、設定を確認します
- エンジンのスイッチを切り、必要に応じて設定を繰り返します

スチール販売店による点検と保守

整備作業

当社では、整備や修理を STIHL 認定サービス店だけに依頼されることをお勧めします。

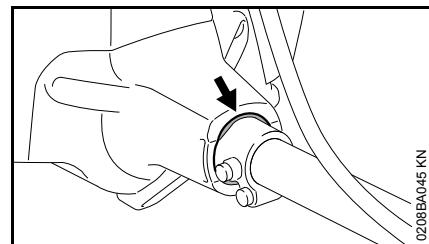
燃料タンク内のピックアップボディ



- 燃料タンクのピックアップボディを毎年点検して、必要に応じて交換します

ピックアップボディは、図面に示されているタンクの範囲内に置く必要があります。

防振工メント



防振のためのゴムインサートが1つ、エンジンとドライブチューブの間に挿入されています。顕著な摩耗がある場合、または振動が常に増加しているときは、それらを点検してください。

金属製カッティングアタッチメント

カッティングアタッチメントの超硬チップ付きカッターを STIHL USG を使用して目立てします。

整備表

次の整備周期は通常の作業条件を対象としています。毎日の作業時間が通常よりも長い場合、あるいは作業条件が悪い場合（非常に埃の多い場所など）は、それに応じて、表に示された間隔よりも短くしてください。

	使用前	作業終了後または毎日	燃料給油時	毎週	毎月	毎年	故障の場合	破損の場合	必要な場合
機械本体	目視検査（安全状態と漏れ）	X	X						
	掃除		X						
	損傷した部品は交換してください	X							
コントロール ハンドル	機能テスト	X	X						
エアー フィルター	目視検査				X		X		
	交換 ¹⁾							X	
手動燃料ポンプ（装備している場合）	点検	X							
	修理は STIHL サービス店に依頼してください ²⁾							X	
燃料タンク	掃除				X		X		X
燃料タンク内のピックアップ ボディ	点検は STIHL サービス店に依頼してください ²⁾						X		
	交換は STIHL サービス店に依頼してください ²⁾					X		X	X
キャブレーター	アイドリング調整の点検（カッティング アタッチメントは回転しないこと）	X	X						
	アイドルスピードを設定します。								X
スパーク プラグ	電極ギャップの調整						X		
	100 運転時間ごとに交換								
冷却風の吸引ポート	目視検査		X						
	掃除								X
シリンダー フィン	掃除は STIHL サービス店に依頼してください ²⁾					X			
手の届くところのスクリュー、ナット、およびボルトすべて（調整スクリューを除く）	締め直し								X

次の整備周期は通常の作業条件を対象としています。毎日の作業時間が通常よりも長い場合、あるいは作業条件が悪い場合（非常に埃の多い場所など）は、それに応じて、表に示された間隔よりも短くしてください。		使用前	作業終了後または毎日	燃料給油時	毎週	毎月	毎年	故障の場合	破損の場合	必要な場合
防振部品		目視検査 ³⁾	X					X		X
		交換は STIHL サービス店に依頼してください ²⁾							X	
金属製カッティング アタッチメント		目視検査	X	X						
		交換							X	
		しっかりと取り付けられているか確認	X	X						
		目立ては STIHL サービス店に依頼してください ²⁾	X							X
安全情報ラベル		交換							X	

1) エンジンの出力が著しく低下した場合に限る

2) スチールではスチール サービス店をお勧めします

3) 「サービス店による点検と保守」の項のサブセクション「防振エレメント」を参照してください

磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の記述を遵守して使用すると、機械の過度の磨耗や損傷が回避されます。

本機の使用、整備並びに保管は、本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

特に以下の場合のように、安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容及び警告事項に従わずに使用したことにより起因する全ての損傷については、ユーザーが責任を負います：

- スチールが許可していない製品の改造。
- 当製品への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリーの使用。
- 指定外の目的に当製品を使用。
- スポーツ或いは競技等の催し物に当製品を使用。
- 損傷部品を装備したままで当製品を使用したことから生じる派生的損傷。

整備作業

「整備表」に列記されている作業は、必ず全て定期的に行ってください。整備作業を使用者が自ら行えない場合は、サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

上記整備作業を怠ったことが原因で生じた以下のような損傷に対しては、上記の例として、以下の部品が挙げられます：

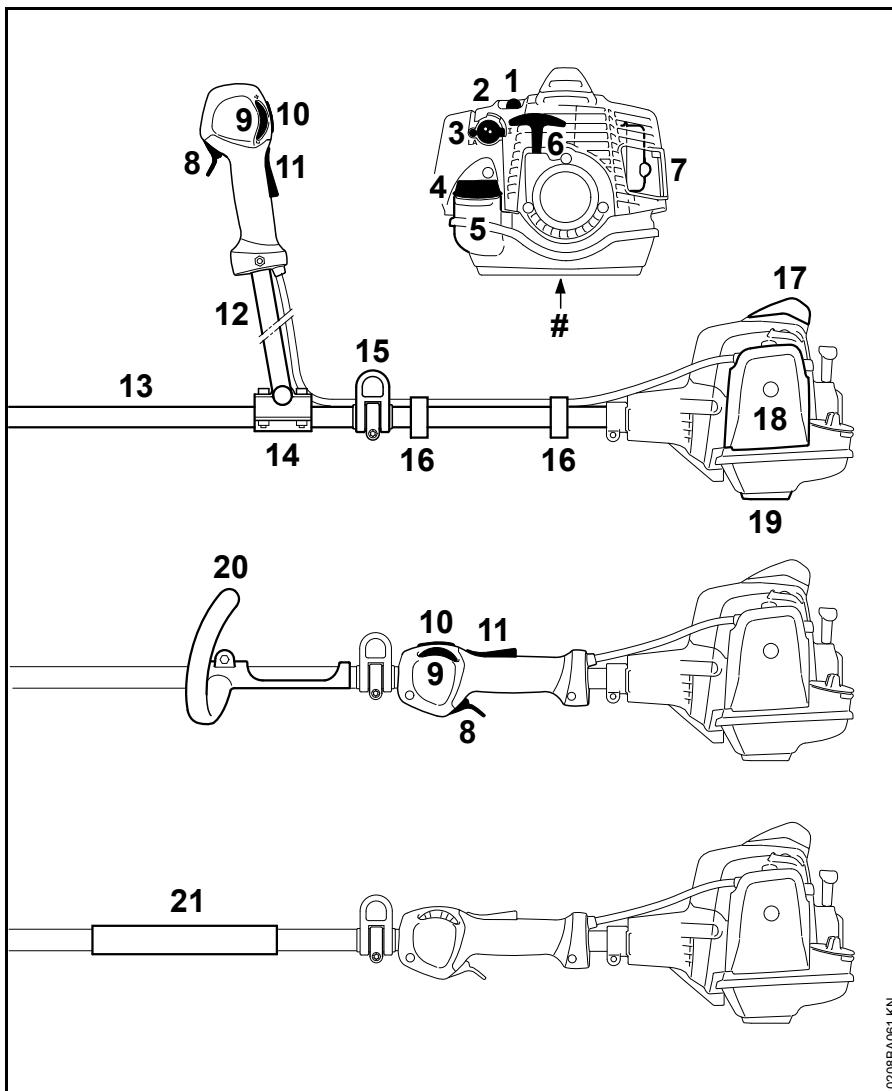
- 指定された時期に実施されなかつた整備や不十分な整備(例：エアーフィルター、燃料フィルター)、不適切なキャブレターの調整または不十分な冷却空気経路の掃除(エアー吸入口、シリンダーフィン)が原因で生じたエンジンの損傷。
- 不適切な保管に起因する腐食およびその他の派生的損傷。
- 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷。

磨耗部品

パワーツールの部品によっては、規定どおりに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます：

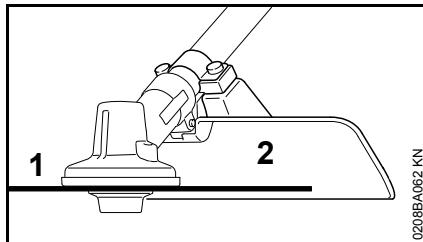
- カッティングアタッチメント(全種)
- カッティングアタッチメント固定用パーツ(ライダープレート、ナット等)
- カッティングアタッチメント用デフレクター
- クラッチ
- フィルター(エアーフィルター、燃料フィルター)
- リワインドスター
- スパーク プラグ
- 防振エレメント

主要構成部品



- | | |
|----|--------------------|
| 1 | 手動燃料ポンプ |
| 2 | 暖機スタートノブ |
| 3 | キャブレター調整スクリュー |
| 4 | 燃料タンクキャップ |
| 5 | 燃料タンク |
| 6 | スターターグリップ |
| 7 | マフラー |
| 8 | スロットルトリガー |
| 9 | サムホイール |
| 10 | スイッチ |
| 11 | スロットルトリガーロックアウト |
| 12 | 両手持ちハンドルバー |
| 13 | チューブ |
| 14 | ハンドルバー サポート |
| 15 | 吊り下げ用リング |
| 16 | スロットルケーブルおよびサポート |
| 17 | キャップ付きスパークプラグターミナル |
| 18 | エアーフィルター カバー |
| 19 | マシンサポート |
| 20 | ループハンドル |
| 21 | ハンドルホース |
| # | 機械番号 |

0208BA061 KN



1 金属製カッティングツール

2 ガード

技術仕様

エンジン

単気筒 2 サイクル エンジン

排気量 : 24.1 cm³

シリンダー径 : 35 mm

ピストンストローク : 25 mm

ISO 8893 に準拠した 0.9 kW (1.2
エンジン出力 : HP)、8500 rpm
時

アイドリング回転数 : 2800 rpm

回転数制御範囲 (公称
値) : 9700 rpm

シャフト最高回転数 (
カッティングアタッ
チメント) : 7950 rpm

イグニッションシステム

エレクトロニック マグネットイグニッショ

スパーク プラグ (雜

音防止) : NGK CMR6H

電極ギャップ : 0.5 mm

燃料システム

燃料ポンプ付き全方向スイーパー ドラム式キャブレター

燃料タンク容量 : 540 cm³ (0.54 l)

重量

燃料無しの状態、カッティングアタッ
チメントとデフレクターを除く

FS 26 SC : 4.5 kg

FS 26 RC : 4.6 kg

FS 26 C : 4.9 kg

全長

カッティングアタッチメントを除く

FS 26 SC : 1,780 mm

FS 26 RC : 1,780 mm

FS 26 C : 1,780 mm

装置特長

C コンフォート機能に関する注意事
項

S ハンドルホース

R ループハンドル

音圧・音響・振動レベル

音圧、音響、および振動の数値は、刈
払機の作動状態としてアイドリング回
転および公称定格最大回転を均等に考
慮して、計算されています。

Physical Agents の振動指令

2002/44/EC への適合の詳細について
は、www.stihl.com/vib/ をご覧ください

ISO 22868 に準拠した音圧レベル L_{peq}

金属製カッティングツール付き

FS 26 SC : 93 dB(A)

FS 26 RC : 93 dB(A)

FS 26 C : 93 dB(A)

ISO 22868 による音響出力レベル L_{wRA}

金属製カッティングツール付き

FS 26 SC : 108 dB(A)

FS 26 RC : 108 dB(A)

FS 26 C : 108 dB(A)

ISO 22867 による振動レベル $a_{hv,eq}$

金属製カッティングツール付き

ハンドル、ハンドル、
左 右

FS 26 SC : 6.5 m/s² 7.5 m/s²

FS 26 RC : 4.5 m/s² 5.9 m/s²

FS 26 C : 4.3 m/s² 3.5 m/s²

指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、音圧レベルおよび音響出力レベルについて 2.5 dB(A) です。指令 2006/42/EC に準拠した K-係数は、振動加速度について 2.0 m/s² です。

整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることだけです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチールサービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチールサービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

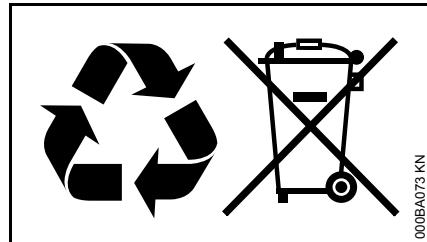
修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

当社ではスチールオリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL**[®]ロゴマークおよびスチール部品シンボルマーク **G** が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

廃棄

国別の廃棄の規則および規制を順守してください。



スチール製品は、家庭用ごみ入れに廃棄しないでください。製品、アクセサリー、包装は、環境に配慮してリサイクルを行うため、認可された廃棄場に持ち込んでください。

廃棄物処理の最新情報については、スチールサービス店へお問い合わせください。

0458-594-4321-A

japanisch



www.stihl.com



0458-594-4321-A